

6-6.谷山北部地区

(1)地区の概要

本市の南部、谷山地域の北側に位置し、永田川上流域と下流域左岸の平坦地、丘陵部の住宅団地、臨海部の埋立地等で構成されています。

人口は、約8万2千人で、これまでの増加傾向から減少に転じていますが、年少人口比率は15.7%と松元地域、吉野地域に次いで高い状況となっています。



(2)緑に関する現況と課題

地区西部の山地や永田川上流域には、豊かな自然環境や良好な田園集落環境が残されるとともに、丘陵部の住宅団地周辺にも市街地における貴重な緑が残されており、緑被率が59.4%と、市全体の69.2%よりは低いが、比較的高い状況となっています。

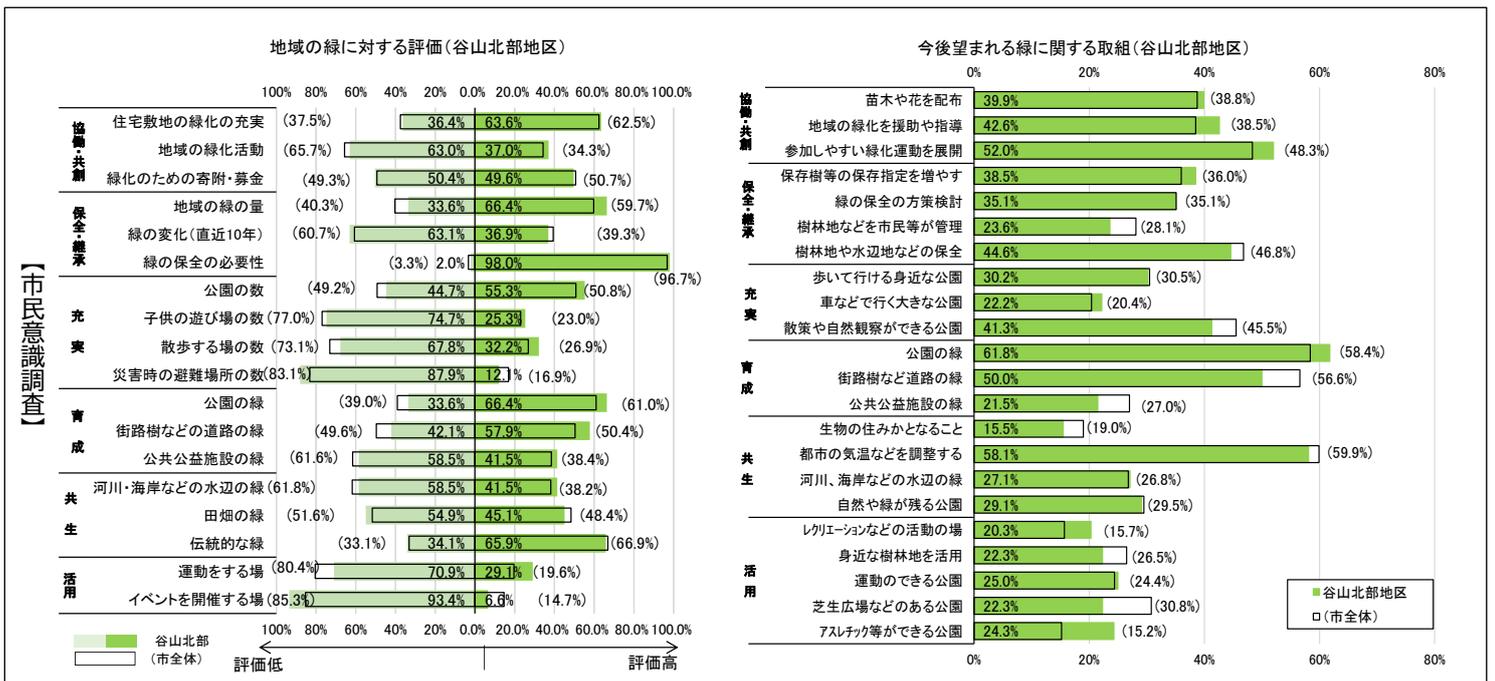
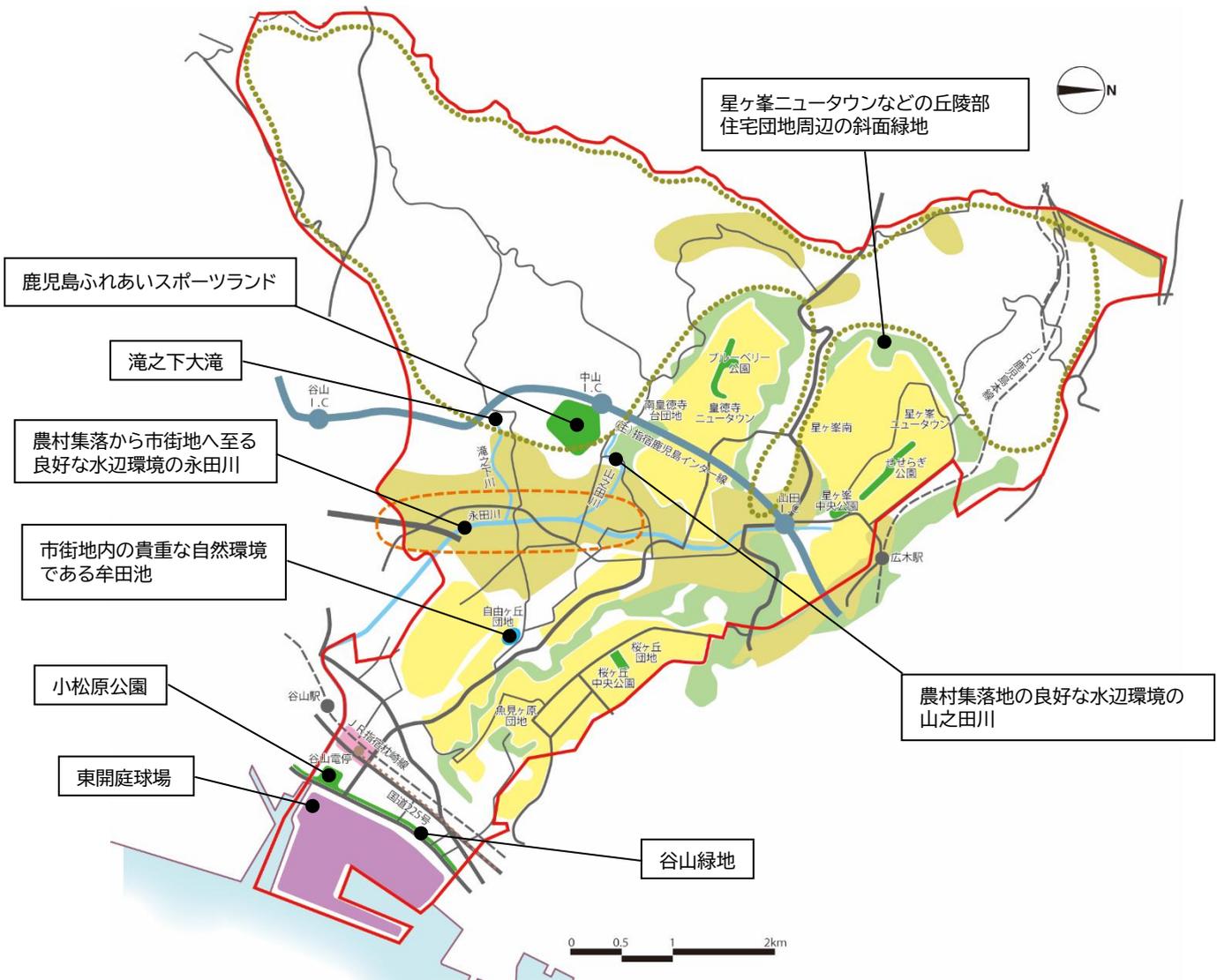
また、鹿児島ふれあいスポーツランドや東開庭球場など、スポーツ・レクリエーション活動の拠点が整備されているほか、地区内の都市公園が127箇所あり、1人当たりの都市公園面積は12.5㎡/人と、市全体の7.9㎡/人を大きく上回っており、全地域・地区で最も高くなっています。

市民意識調査結果をみますと、「緑の保全が必要」と考える市民の割合が高く、「イベントを開催する場」や「災害時の避難場所」としての公園・緑地が少ないと考えている市民の割合が高くなっています。また、「公園の緑」の育成・創出や緑による「都市の気温などを調整」する機能の向上を望む市民の割合が高くなっています。

谷山北部地区の特徴的な結果としては、市全体と比べ、大きな差がある項目がなく、市全体の結果と概ね同様の結果となっています。

これらのことを踏まえ、現存する豊かな自然環境や良好な田園集落環境などを保全するとともに、身近な緑の育成・創出や既存の公園施設等の再整備による広く市民に親しまれる公園づくり、鹿児島ふれあいスポーツランドをはじめとした都市公園等を活用した交流の促進や地域の特性を生かしたグリーン・ツーリズムの推進が必要であると考えられます。

【谷山北部地区の緑に関わる主な資源】



(資料) 第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープランの策定に関する市民意識調査(令和2(2020)年度)

(3) 緑に関する方針(谷山北部地区)

永田川上流域等の良好な自然環境の保全・活用や

鹿児島ふれあいスポーツランドの活用による交流の促進

地区西部の山間部や永田川上流域の豊かな自然環境や良好な田園集落環境を保全するとともに、それらの自然環境を生かしたグリーン・ツーリズムの推進を図るほか、街路樹などの身近な緑の育成・創出や広く市民に親しまれる公園づくり、鹿児島ふれあいスポーツランドを活用した交流の促進を図ります。

(4) 基本方針ごとの主な施策・事業

〈1. 協働・共創〉

- 花と緑の彩り活動の促進
- 公園愛護活動や街路樹愛護活動の普及拡大
- 地域コミュニティによる公園管理の促進（桜ヶ丘二丁目公園、城跡公園）

〈2. 保全・継承〉

- 緑地保全制度の活用
（河川区域、農業振興地域整備計画や森林整備計画に基づく取組）
- 斜面緑地保全方策の検討
- 保存樹等の保護の推進（小松原公園内）
- 緑の維持・保全によるうるおいのある都市景観の形成等の推進
- 緑の維持・保全による防災・減災等の推進

〈3. 充実〉

- 緑のシンボル拠点の公園等の整備・充実（鹿児島ふれあいスポーツランド）
- 公園・緑地のバリアフリー化等の推進
- 公園施設長寿命化計画の推進
- 地域の実情に応じた公園・緑地整備の推進（民有地等の借上げによる公園整備等）

〈4. 育成〉

- 民間施設の屋上・壁面緑化の促進と制度拡充の検討
- 街路樹及び公園樹の再生（質の転換）
- 地区計画の活用による緑化の促進（星ヶ峯南地区、南皇徳寺台地区、リオーネ・ヴェルデ地区等）
- 公共施設の屋上・壁面緑化等の推進
- 学校校庭の芝生化等の維持・保全（皇徳寺小・中、東谷山小・中、桜丘東小、桜丘西小、桜丘中等）

〈5. 共生〉

- 学校や地域における環境学習・環境教育の促進
- 自然観察の場の活用（公園施設を活用した自然観察会の開催：鹿児島ふれあいスポーツランド）

〈6. 活用〉

- 市民農園としての活用（山田農園、中山ふれあい農園、五ヶ別府農園、第2五ヶ別府農園）
- グリーン・ツーリズムの推進
- 企業等による公園・緑地等の活用（鹿児島ふれあいスポーツランド、東開庭球場）
- イベント等による公園・緑地等の活用（鹿児島ふれあいスポーツランド、東開庭球場）

【谷山北部地区の緑の方針図】

